



泉乃凍

下

特別
A10
7386
3



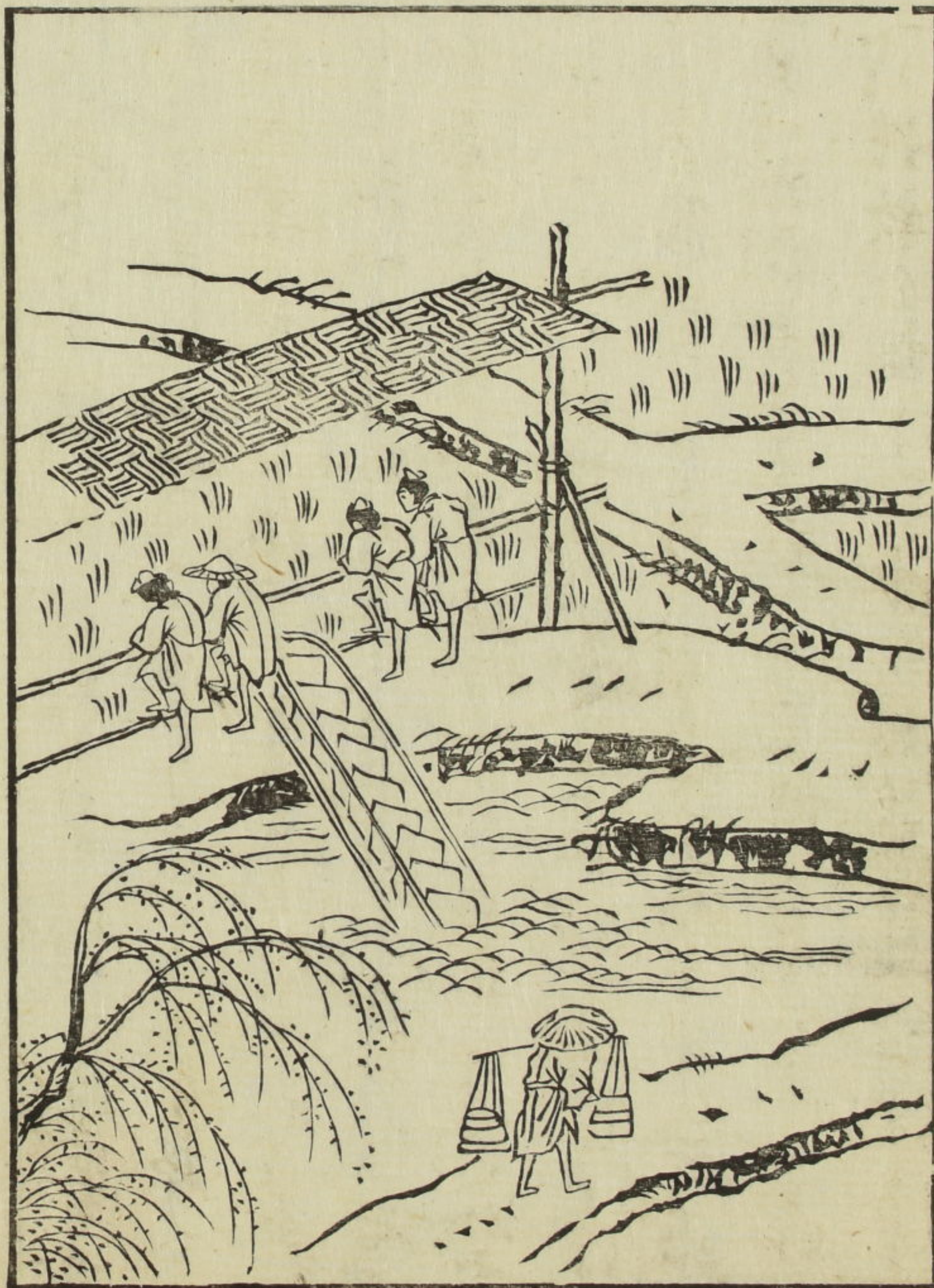


今ふらふら雞卵の形。そのまゝユ入てり。かく
ていふ。あらあらんと。ねとくゆり振く。それば
をぐて飽。城とまるれ梁よりね。さして梁のどより
トをのぞいて。花おちるふ。即しとる。音して。
か。鳥胸の下の雞卵は。ふきぬ。と。ん。ふ。と。との
さ。と。と。り。ふ。ふ。び。城。ふ。んとす。是とるふ
種とき。限りある。な。と。う。出。て。駆。返。け。ぬ。り。
いはくとも。く。起。を。ぬ。いと。恐。き。と。り。形。い。う。て。
腹。み。んと。思。ふ。き。明。の。日。城。の。内。の。雞。卵。城。を。

あり。と。く。ね。か。う。木。は。ひ。て。雞。卵。の。形。ふ。い。つ。じ
く。け。つ。り。城。の。内。ふ。入。置。さ。り。げ。あ。く。く。か。ん。を
と。と。ら。ふ。は。く。て。飽。眠。日。の。さ。ま。ふ。入。事。り。か。の
木の卵をふらふ。休のやうふ梁よりおちぬ。れ。と
か。で。う。破。る。べき。又。梁。へ。上。り。て。い。は。ぬ。か。く。ま。を。と
二。三。度。を。れ。ども。終。う。破。れ。ど。れ。ど。ち。ん。方。な。き
さ。ぬ。う。て。後。園。の。あ。い。む。ひ。出。ぬ。よう。ど。は。う
か。ぬ。を。の。う。か。か。く。こ。こ。と。り。は。進。な。ぬ
そのやんま。く。ん。む。と。あ。う。ひ。わ。ふ。城。家。の。ぬ。く

民間おろりて衆久しといへども。第上の大の
を忘れぬ。故に指さうらひをさる。水はすむ
これ歌ふむと貫之もすめしぬ。誅は優しやじ
きんるるれども。かの歌は悪からず。水はけき災ふ
かゝるも。ふそふもるるべし。そおいうむとるれバ。
汝々系番ハ何事もや。野池村田乃中
をて人れ上まていさ。田父野人をも身持
さきり。又いづひをといふるハ。そる大
よてハ何とらいぬを後。かれ邦の黄鳥黄鳥





といふ事。うぐいさより大なり。熱身純黄。羽先尾先。瑠璃色。光り美しく。其聲ハ諸鳥の鳴音。淡く清く。多事と定まぬ。声有。和州小泉の藩侯。昔年長崎より。寄。雄まことともに見ゆ。ふ。り。此に於ての人。存き。ふ。かの邦より来る書。上。記。一。画。ふ。は。ち。と。智ち食くして。わが國のうらひを。何れぬ。り。ハ的てき然ぜんなり。されども我國に當る。といへ。詩歌の料と。なり。く。風雅の教。吹ふと。う。

だ。今晩の夕乃上といふ。暮らぐし暮らぐ
 ぎり。秋刈てあゝあゝ。五雨十風の早ゆ
 う。て。更長の課責をまぬきんとを教ふへ。
 酢の飯。香芹乃美土釜。茶葉茶を煮。
 磁甕。ふらうほと。月のお花のゆ。
 おと。悦ひか。庭。く。楽。ハ。何。る。人。
 茶葉の古き。の。い。あ。ふ。ぐ。柳。の。下。
 男。ハ。て。り。女。ハ。あ。の。て。と。何。る。こ。ろ。何。乃。
 か。あ。あ。き。方。も。こ。ろ。あ。あ。あ。あ。今。の。そ。と

といふ。山田舎の村民といふ。父祖の傳。又
 といふ。の。僥倖。や。り。田。地。山。林。か。の。ど。く。何。
 き。多。く。な。業。と。い。て。未。利。と。い。ひ。或。ハ
 何。乃。用。と。い。ふ。都。の。の。り。難。波。ハ。何。乃。
 和。歌。流。傳。の。席。は。と。り。茶。香。粉。麝。の。坊。
 か。ま。ふ。り。茶。香。粉。麝。と。い。ふ。何。乃。何。乃。
 能。と。い。ふ。刀。剣。と。い。ふ。何。乃。何。乃。
 とも。い。ふ。茶。香。粉。麝。の。茶。と。い。ふ。茶。と。い。ふ。
 といひ。茶。香。粉。麝。の。茶。と。い。ふ。茶。と。い。ふ。

さるふく。和歌ハ神代よりはじまり。あやま
る邦のいもく。かゝる造るるとき。陰陽の二
神。たゞ然らうあふめらう。唱へ流し。以道忠
げ。是とつあやま。和歌ハ。神代より。い
る。三十一文字の基礎。なまり。あやまより
なり。もはう。和邦の風。何とあり。富の山川。生
流。是とつあやま。今のそ。い。う。皇統乃。孫。い。
あ。代一姓。か。あ。何。い。き。あ。他。の。邦。ハ
あ。も。と。よ。む。さ。さ。は。和邦。ハ。生。れ。る。ん。ハ。

誰ハ敷島の道と。さふ。い。ふ。さ。る。あ。ま。
志。は。あ。れ。ど。聖。主。聖。王。の。統。治。れ。曲。を
さ。あ。ふ。と。流。世。乃。聲。と。さ。ふ。と。い。う。と。は。
琴。柱。ハ。膝。と。て。耳。と。深。め。れ。ハ。律。呂。の。あ。ま。
う。の。い。か。と。和。邦。ハ。心。と。い。う。と。て。
い。と。詩。ハ。性。情。の。正。と。い。う。と。同。く。深。ま。
さ。は。り。り。き。と。中。古。陵。夷。乃。後。人。と。あ。
と。と。弄。び。て。秋。実。を。棄。錦。心。緒。腸。む。う。と。
月。露。の。巧。と。い。う。と。は。瓊。簡。玉。篋。徒。と。花。鳥。

忠情と通じ。あゝをわて。玉階草生て奔ハニ
 乃鶉をからし。上うへ苑菊えんきくをきつ後すいニかん
鶉うし奔ハ。有ハ孤こ後ご。さう。濠こう審しん諤たつ乃ハ
奔ハ。待まち。待まち。経けい。さう。
 風日ふうじつより。濠こう靡み乃ハ智ち年ねん又また長なが矣や。正史しやうし
 日本續紀。小説。は古今著聞。宇治
 拾遺。うゝ乃或あるもさう。はさう。其時代
 乃ハうハさハ。たハさハ。さハ。相綱上さうかうさハゆ
 う。武權下ぶけんかさハさハ。九門ハ省古しやうこ
 復ふせさハ。さハさハ。さハさハ。さハさハ。さハさハ。

さる。て。好色こうしきの物ものは。我金亀われきんきを。て。感かんる。さハと
 うハさハ。宝珠ほうしゆおハさハ。味あじうハはハさハさハ
 衣える。さハは。我邦わがくにの婦女ふにょ。うハさハさハ。白粉はくふ
 衣えし。手箱てしよの内うちり。を。え。置おく。年としは。経けいて。光
 彩さいまハさハ。呼よめハの。才さい華かさハ。さハ。只ただ風流ふうりゆう治ち
 家けを。事ことさハ。身みぬハめハの。さハうハ死し。さハ。悔くわいもハま
 ざハさハの。おハ。志しは。あハさハ。どハはハさハ。さハ。ひハ何なんもハさハ
 幸さいの。さハだハさハんハや。干将かんざう莫邪もくじゃが。剣けんも。雲うん着ちやくの
 きハけハる。沙さ郎らうと。うハさハさハ。七しち実じつ丸まるの。終はつも。頻ひん

りあつたものかきさう。南宋乃ち胡漢菴と
いふ學士。時乃宰相秦檜が嘉州國にあり
する死状。時の天子一上臨み。て秦
檜を斬て。天下り謝せよといふ。滿朝忠臣
臣。うけしめ。死をうけし。て送歸
りふき。き國へ送られし。年を經て。故
免の臣。故漢の逢中より。志しき友。悦
ひの涙。けすむろ。梨花といふ妓の。席
み。の。お。く。を。歌。ひ。か。る。る。ふ。漢菴

あれを稱し。詩はけりて。梨園の典ふ。漢
朱瞻菴の詩。華人到此。誤平生。ハ胡漢菴の
とけすて。みゆ。い。す。免。し。と。か。や。さ。し。も
う。ハ。一。時。の。風。流。と。い。ふ。づ。て。サ。人。は
強。壯。と。す。ろ。う。と。也。志。は。あ。れ。ど。僅。々。風
雅。風。流。を。説。き。ば。其。弊。放。蕩。り。流。し。や。と。
され。ば。也。を。う。聖。域。と。い。う。人。は。さ。う。り。
其。餘。ハ。鉄。石。を。う。つ。て。心。持。と。す。と。い。ふ。も。鉛。華
の。銷。滅。と。い。ふ。け。さ。る。ハ。い。ろ。ぐ。も。あ。る。是。は。浅

あれはもう。あゝ名聞の如く人々。外若びき
とをなむ。是れより風俗の美といふ。一
さばら。さばら。其人は。只一素。世を
佛とせり。一生は。世を。世を。世を。
るに。かゝる人。ハナ。二三人。退て
屋漏を。家す。侍見。又。又。又。
の。侍。上。上。上。上。上。上。上。上。
名。名。名。名。名。名。名。名。名。名。
す。一。一。一。一。一。一。一。一。一。一。

婦を。まに。まに。まに。まに。まに。まに。まに。まに。
是。是。是。是。是。是。是。是。是。是。
の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
藩。藩。藩。藩。藩。藩。藩。藩。藩。藩。
畑。畑。畑。畑。畑。畑。畑。畑。畑。畑。
急。急。急。急。急。急。急。急。急。急。
よ。よ。よ。よ。よ。よ。よ。よ。よ。よ。
り。り。り。り。り。り。り。り。り。り。

ち。不忠ふまの罪尤大なり。されどこれより
いふに及ばぬ。あつてもいふに及ばぬ。なまかな
才の星情あふ人乃上り。これいふ。思ふに
そののみ南朝乃天子。楠正行は宮女を降し
そのふ。正行かゝるみる。治り治は。人其
故を言ふ。正行の答をきく。一昔乃和歌を
詠む。さても世に。なづらふ。一をも。いふ。ぬ。才乃。かり
か。規。則。を。い。ふ。法。を。ん。是。こ。の。情。を。お。す。る。よ
き規則あり。然る。白。糸。乃。い。す。ぐ。染。る。あ

る。耳目は。さ。ら。う。と。す。る。不。浄。觀。ふ。入。は。志。る。是
と。の。け。え。は。未。だ。一。て。あ。れ。は。纏。綿。乃。後
か。制。や。ん。と。す。れ。は。萬。牛。首。を。回。り。て。其。勢。ひ
挽回。が。し。あ。の。の。か。後。い。や。ふ。る。世。を
か。ひ。て。男。女。の。風。流。も。形。ひ。乃。す。る。は
い。ふ。げ。く。も。か。ち。は。我。邦。乃。も。い。は。さ。ふ
と。い。ふ。に。あ。つ。の。書。ば。う。る。も。所。謂。美。人
オ。女。妙。々。ハ。薄。命。か。る。今。の。の。二。は。い。げ
い。ふ。些。玉。乃。を。と。韓。重。乃。の。西。施。か。る

ひび烟波より。公主黄鹄を弾じ。昭君青
塚を眺し。李夫人抄き。あはれ。班婕妤
好む恩情中絶。乃吟。趙家の姉妹。魏宮乃甄氏
桃李悍婦。非烟暴主。りり。む。潘
妃。金蓮の榮も。齊宮の夢み。か。露華
又村の影も。景陽の烟迹。か。張玉が夢
秋浦の月。古き松を。鴛鴦機上
子。梅中の月。古き松を。鴛鴦機上
燈。云。り。床と照し。王嬪容。血ハ石

遠の。回心院の。舞日。を。か。類ひする
そ。あ。朱明。の。廣陵の歌妓
小青。とい。影。乃。世。み
免。人。す。か。う。て。
の。か。志。と。書。詩。て。
志。操。も。や。多。く。か。男
お。あ。ひ。形。に。文。雅。風。流。う。す。ふ
情。あ。ん。人。と。似。を。や。ん。と。形。し。る。志。れ
が。不。遇。う。て。う。は。叶。ぬ。縁。あ。る。な。ん。さ。い

かか。さるふともあつていひめつゆけはとてうく。
まど初秋のみと夜。あつてちるをのめきバ。
やと骨乃評論いこつやむづ。若り
われぬる類ひも。やかづてちるづきりの也。
かびは上る。骨は蛙乃いつてく。汝類ひ
の上よつて。やみらきと君長を定免得
まづ。いづや清露乃中。オ徳無
からり。すさとす。あさとちりてか
政のうふ。長く松類乃君長とかり。かの鳥

獸乃中の麟鳳ふも立か。ぬきハいげきる。覚
うは螢のとき。このかすづ。かとし書生乃
時は。孫敬先生の窓り。宿。讀書の功は
みぬれ。この文學のより賞をふつて。
あうれ。わづは南安れ才とたりぬきむ。
うらやう。この志を。隋の煬帝乃
景新官つとされ。玄女を中よえまづ。
長夜に飲を。つき。其の採ころり
ころ。かぬとむ。乃治世も武備を

かろ。三春乃繁華をうけ。九秋の閑寂は
あゝむ。そ志探るも一。凡清の何
とくゆをうら。蜂蝶はまよふ。蜩蟬乃
夏は金。蚊虻乃暑天の象。螢火の夜
陰りかやと類ひ。あゝおのり時分は
顔のれ。時を言ふ。唯か木か。吹すよ
つむ。空牙の言。只暖。ぬく。ハ
さゆ。詩の唐風。七月在野。八月在戸。十
月蟋蟀入我床下。是る人時をりて進退





して。空をふまきとも狼狽^{うゑふ}なるをふき。其知識
は他^た蟲^{ちゅう}よすれつ。つひかふ。されは古歌もは
心ど。きりぐせくや霜^{しも}ねるきむ。あかど
より。これ蚤^{ひら}蟻^ぎ蜈蚣^{むぐも}蜘蛛^{くも}かぐの。人^{ひと}の害
あるハあもいそぐ。其^{その}体^{てい}のむ。い。でも。あ
はく。坐^ざ席^{せき}へ出^でて。は。そ。を。う。す。て。あ。む。
を。も。ゆ。さ。ず。う。つ。腰^{こし}。悔^くむ。う。り。は。さ。め。う。だ。ね。さ
む。さ。や。あ。る。は。あ。う。ひ。次^{つぎ}第^{だい}り。人^{ひと}は。あ。う。
関^{かん}の。建^たて。と。も。よ。す。れ。ど。も。あ。う。い。し。き。う。ハ

次。却て音、影の鼓吹とふにハ。大徳ありて
が象と成ゆんや。いそんや。鳴音の清亮
て。ちりも耕織の本業にまわれど。物造ふと
婦人うおしや。古語は促織鳴て嬾婦に似たり。
古形よりききまてふきりぐを
る。是りの他、森りやまわすこつりあ祭。
さるかどよ右よ。つらどく。今俗はかゝるぎい
といふハ。本名鱈、鱈乃きりぐとあるに。つらの
ころよりろやまりて。叶林叶徑の中は生む
る。爪食、森をきりぐすとよび。三都の市を

ハ。賣ちりのあれば買人あつて。小き籠に入見
童忠めてありびと也。されハ鱈、鱈ハ先祖より
傳り。お名を。いりくむ。奪はきぬまハ。
か。他、森はあは。いりぐり。み憤るきり。
いさ。このききもふり。きりぐ。その名を爪食
む。よばり。わま。いりぐ。か。ろ。ぎ。此俗稱を
めて世り標やれ。恬然として自得也。寛
厚此器量。他、森此及ぬ。處り。さる。や。つ。り。也。
ま。る。ぬ。爪食む。い。り。ぐ。や。き。オ。と。も。て。き。り。ぐ。

忠名をぬき。おのが面目とおりのちて見ら
く。人みさぐしわらきて。かきたり。遂
に。本名を以て喰ひ。み。深き。ひて。其害を
了ぬき。只。和洋の心ある。人りの。きり。ぐ
と。あき。か。く。の。人。は。い。い。と。か。あ。き
ふ。害。り。遠。ざ。り。災。を。や。ぬ。う。と。瓜。に
む。賢。愚。得。失。天。地。の。違。る。れ。土。ふ。て
不。道。の。美。に。あ。る。の。う。に。二。軍。ふ。に。
て。ハ。の。智。謀。勇。武。も。法。を。り。す。ぐ。れ。れ。バ。

こ。に。蟬。を。聞。と。賈。秋。壑。が。蟬。蟬。経。り。洋。
か。つ。こ。の。文。武。才。徳。並。佈。り。諸。侯。乃。君。長。と
り。て。恥。と。う。こ。の。は。か。き。は。今。の。花。類
此。長。と。か。つ。て。の。政。を。き。づ。き。れ。る。夫
為。政。乃。道。は。大。う。と。そ。術。も。す。多。様。な。の。
一。言。忠。盡。と。き。ぬ。ゆ。と。今。の。と。り。人。は。こ。こ
で。忠。乃。類。う。う。バ。ふ。う。に。蟬。蟬。と。蟬。蟬。の。と。
心。す。と。は。そ。い。ひ。き。バ。の。唱。う。は。り。人。に
と。堯。舜。仁。を。唱。う。民。仁。は。お。こ。の。紫。紵。暴。を

以て民暴を治る。上利をこれ免ば下を
きりたつ。古語に城中廣肩をこれ免ば。
城の廣きと一尺とつ。海虫類の政は
うば。又みみうばとて下を帥よ。庶
恥乃を治る。貨賂乃源を治る。
上下交利乃弊を治る。昇平久くあるは君
上乃を治る。次第は重き。上下の情次第
りる。新令の次第は重き。急を次第
又亡び。李仙の次第は長し。民俗を治る

やゆき。用度志を治る。賦役次第は
あゆむ。士人次第は窮し。牧民次第は多し。
海のよきを治る。細紀を治る。賞
罰を治る。かまふ。蝸牛頭上は二國を治る。
利を治る。私を治る。私を治る。私を治る。
文を治る。文を治る。文を治る。文を治る。
武を治る。武を治る。武を治る。武を治る。
職を治る。治世を武備を治る。治世を武備を治る。
蠅虎乃匹夫を治る。子とてハ孝を

死。臣。一。ハ。忠。リ。死。ス。ル。者。ト。シ。テ。ハ。
抑。ス。蚕。ガ。身。ヲ。一。糸。一。ト。人。ト。シ。テ。ハ。
糸。と。あ。れ。蟬。乃。志。高。ク。行。一。一。と。さ。ず。大。
と。賞。一。蜂。蝶。の。粧。飾。の。風。俗。を。正。一。蜘蛛。乃。
賊。害。を。す。り。其。を。捕。誅。一。斑。猫。蛇。蝎。の。毒。
吏。を。一。一。と。さ。ず。の。毒。を。一。一。と。さ。ず。か。し。
蛇。乃。一。一。と。さ。ず。一。一。と。さ。ず。蛙。乃。一。一。と。さ。ず。
す。け。夏。乃。日。一。一。と。さ。ず。蚊。乃。一。一。と。さ。ず。求。食。
一。一。と。さ。ず。火。乃。一。一。と。さ。ず。火。乃。一。一。と。さ。ず。

冬。糧。を。夏。日。一。一。と。さ。ず。心。乃。一。一。と。さ。ず。
さ。め。一。一。と。さ。ず。み。乃。一。一。と。さ。ず。友。乃。一。一。と。さ。ず。
一。一。と。さ。ず。階。乃。一。一。と。さ。ず。禁。乃。一。一。と。さ。ず。紙。乃。一。一。と。さ。ず。
の。乃。一。一。と。さ。ず。書。乃。一。一。と。さ。ず。志。乃。一。一。と。さ。ず。
一。一。と。さ。ず。聖。賢。の。文。字。を。一。一。と。さ。ず。一。一。と。さ。ず。
罪。を。一。一。と。さ。ず。髪。切。む。の。數。を。一。一。と。さ。ず。一。一。と。さ。ず。
婦。老。女。乃。一。一。と。さ。ず。濟。度。乃。一。一。と。さ。ず。一。一。と。さ。ず。
室。女。を。一。一。と。さ。ず。尼。乃。一。一。と。さ。ず。天。倫。乃。一。一。と。さ。ず。

不認此印
者係偽刻

出諫後序

余讀出諫至金龜子。蓋知其意云。
夫明君之於臣。知其才而不竭。也是乃
欲大任之乎。忠臣之於職。寔々忘其以
不以。致其身。唯職之視。於是乎上
下之協焉。以不可不君。不可不臣也乎。
夫士自許其有才。而在乎蔽也。不知均其

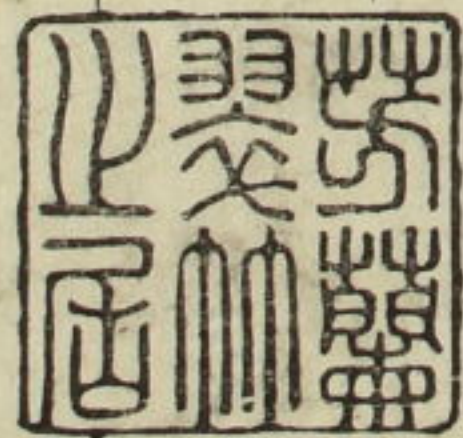
散乎不_レ散。乃心謂君止於我。其知_レ之矣。
而猶未而不_レ歎。呌鬱者。幾鮮矣哉。
居乎劇也。頗底_レ其効。乃矜其才。自
矜映勝。任怨不擢清要。滔_レ皆是也。
友人江北海。磊落奇辯。鯨麗宏
博。以儒仕某族。而居今世。秉古是
其政術施設。欲發之著論。破其心腐。

以爲不朽。晏如於其散。汲_レ乎其職。
其轉今職也。吏事旁午。夙夜維寅。
儒術潤飾。巧計帝中。公家之利。知
無不爲。視有職忘有身。無不稱一切
治辦。猶唯恐奉職無狀。其暇有此業。
似以有所托而洩者。是乃力夫抑塞
煩結者發也。是則有意乎人止。

欲善治不如我。蓋有寸不手。溫人
不知者。不亦士少乎。然而山豈臣
人。以為使臣抱不平者。豈亦邦人之
為。夫在上欲察其下。有如眼鹽而窮
太行者乎。有知雖未處囊中者乎。
是誰也。過也。下而欲安其職。抱閔
擊柝委吏司職。古聖安之。安之乎。

唯有命耳。念茲在茲。成茲在茲。是
則北海之哉。此篇也。小。可以喻大矣。
故作序云爾。

梅龍山人撰



毛定寫



--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

寶曆十二年壬午季秋

平安書肆

西堀川佛光寺下町

唐本屋吉左衛門

行 漢

